

高校生の運動意欲, 社会的スキルそして孤独感

石 倉 忠 夫

《ABSTRACT》

Motivation of Motor Activity, Self-reported Social Skill and Loneliness of High School Students

The purpose was to examine the relationship of motivation of motor activity, self-reported social skill and self-evaluated loneliness of high school students. The number of subjects was 655 (270 males, 385 females). Analysis indicated the results as follows:

- 1) Male participants demonstrated a more positive attitude toward individual life, whereas female participants demonstrated a lower positive attitude.
- 2) Students who possessed higher social skill levels were positive toward personal affairs.
- 3) Motivation of motor activity in students who had high social skill levels was higher than that of students whose social skill levels was low.
- 4) Participants who were lonely possessed lower social skill levels.

Keywords: Motivation, Social Skill, Loneliness, High School Students

- I. 目 的
- II. 方 法
- III. 結 果 と 考 察
- IV. 引 用 参 考 文 献

I. 目 的

21世紀に向け、生活の質を身体的に精神的に豊にしていくことを目標に、生涯をとおした「こころ」と「からだ」の生涯健康教育が重要となる。

一般成人において運動やスポーツをおこなった理由について、「楽しみや気晴らし」(68.4%)、「健康・体力づくり」(50.7%)、「友人・仲間との交流」(44.9%)が上位を占めている(総理府, 1994)。また、伊藤三洋ら(1999)によると、高校生は「趣味や楽しみ」(男71.6%, 女67.1%)、「気分転換や気晴らし」(男62.8%, 女70.6%)、「健康な生活」(男69.6%, 女66.4%)、「仲間と共に伸びる喜び」(男55.4%, 女58.0%)の理由で、体育授業への参加が動機づけられていることが報告されている。これらの結果より、生涯健康教育の観点から、運動・スポーツは生活の質を高める手段の一つであるといえよう。

これまで石倉(1999, 2000, 2001)が行ってきた調査では、大学生を対象として運動・スポーツ参加の活動量や活動形態、対人関係を円滑にするための技能としての社会的スキル(岩田, 1995)、そして孤独感の関連性について主に検討している。その結果、運動・スポーツ参加の量が多い人ほど社会的スキルも高くなる或いは社会的スキルが高い人ほど運動・スポーツの参加量も多くなるという関係にあること、そして社会的スキルの程度はスポーツ種目の嗜好に関連することが明らかにされている。また近年では、運動・スポーツへの参加や教科体育による社会的スキル教育の可能性が示唆されており、「競技スポーツ」や「楽しいスポーツ」の立場を認めつつも、「社会的スキル」や「ライフスキル」を道徳内容とした徳育を試みる傾向にある(市村・中川, 2002; 内藤, 2000; 山本, 1999)。

本調査では、運動・スポーツ参加が生活の質の向上へ及ぼす影響を検討する

手がかりを得るために高校生を調査対象者とし，運動意欲，社会的スキルおよび孤独感の実態を把握すると共にそれらの関連性について明らかにすることを目的とした。

II. 方 法

調査項目：調査対象者の特質に関する質問項目と運動意欲に関する質問項目は猪俣ら（1988）を参考に作成した。社会的スキル尺度は菊地（1994）の Kiss-18を，孤独感尺度は改訂版 UCLA 孤独感尺度（工藤・西川，1983）を用いた（資料参照）。

調査方法及び対象者：2000年7月，M県立Y高校（普通科）の生徒（1,080名）に調査用紙を配布し，1週間内で回収した。回収されたのは，生徒655名（1年生男子112名，女子135名，2年生男子76名，女子109名，3年生男子82名，女子141名）であった。

分析方法：「学校体育の担う役割」については回答の内容をまとめ，次のようにコード化して分類した。①「スポーツの楽しさや喜びを体験させ，学ばせる」，②「スポーツや身体に関する知識を授ける」，③「健康の意地増進を図る」，④「生涯スポーツの礎，運動の習慣付けをする」，⑤「社会性を育てる」，⑥「交友関係作りをする」，⑦「ストレスを発散させる」，⑧「スポーツを通じて得るものを学習させる」，⑨「スポーツの技能を教え，向上させる」，⑩「その他」。運動意欲尺度は「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」「競争欲求」「運動不安」「運動価値観」の6尺度に分けられ，それぞれの尺度について得点を算出した。社会的スキル尺度と孤独感尺度についてはそれぞれの採点方法に従い，得点化した。

III. 結 果 と 考 察

それぞれの分析結果で得られた特徴について報告し，考察する。なお，対象者の特質に関する分析はクロス集計による階自乗検定を，運動意欲，社会的スキルおよび孤独感に関する分析はT検定または1要因分散分析を用いて検討し

た。

(1) 男女比較

1) 対象者の特質に関して

調査対象者の特質に関する質問項目に対する回答の分布について男女比較したところ、以下のような特徴が見られた。

- Q 1 - 2 「自分の健康に興味、関心がありますか」に対し、男子は女子よりも興味関心がある ($x^2 = 19.93$, $df = 1/4$, $p = .001$)。
- Q 1 - 3 「社会の出来事に興味、関心がありますか」に対し、男子は女子よりも興味関心がある ($x^2 = 39.87$, $df = 1/4$, $p = .000$)。
- Q 1 - 4 「スポーツに興味、関心がありますか」に対し、男子は女子よりも興味関心がある ($x^2 = 27.07$, $df = 1/4$, $p = .000$)。
- Q 1 - 5 「学習活動(教養講座)に興味、関心がありますか」に対し、男子は女子よりも興味関心がある ($x^2 = 16.39$, $df = 1/4$, $p = .003$)。
- Q 1 - 6 「人生に生きがいを感じていますか」に対し、男子は女子よりも生きがいを感じている ($x^2 = 11.28$, $df = 1/4$, $p = .024$)。
- Q 1 - 7 「自分の人生が、年をとるにしたがって、だんだんよくなっていくと思いますか」に対し、男子は女子よりもだんだん良くなっていくと思っている傾向がある ($x^2 = 12.84$, $df = 1/4$, $p = .012$)。
- Q 1 - 8 「去年と同じように元気だと思っていますか」に対し、男子は女子より元気だと思っている ($x^2 = 13.09$, $df = 1/4$, $p = .011$)。
- Q 1 - 9 「今の生活に満足していますか」に対し、男女ともに満足している傾向にある ($x^2 = 7.27$, $df = 1/4$, $p = .122$)。
- Q 1 - 10 「家族や親戚、友人との行き来に満足していますか」に対し、男女ともに満足している傾向にある ($x^2 = 3.32$, $df = 1/4$, $p = .506$)。
- Q 1 - 11 「現在、何事もうまくいっていると思いますか」に対し、男女ともにそのように思っていない傾向にある ($x^2 = 7.12$, $df = 1/4$, $p = .129$)。
- Q 1 - 12 「悩み事がないですか」では、男子よりも女子の方で悩み事がある

傾向にある ($\chi^2 = 34.54$, $df = 1/4$, $p = .000$)。

- Q 1-13 「何かの運動あるいはスポーツを行っていますか」において，男子の方がその頻度が高く ($\chi^2 = 46.10$, $df = 1/4$, $p = .000$)，男子の方がよくやっていると判断しているという特徴 (Q 1-14) が見られた ($\chi^2 = 54.65$, $df = 1/3$, $p = .000$)。また，Q 1-15の結果から男子の方が運動やスポーツをする余裕があると回答する割合が高く ($\chi^2 = 30.21$, $df = 1/4$, $p = .000$)，男子の方が楽しいからという理由が圧倒的に強いと回答する割合が高かった (Q 1-16) ($\chi^2 = 22.99$, $df = 1/3$, $p = .000$)。Q 1-17 「運動やスポーツをすることについての意見」としては男女ともに積極的にやるべきだとする生徒は約60%いた ($\chi^2 = 3.20$, $df = 1/2$, $p = .072$) (表 1)。
- Q 1-18 「男女一緒に運動やスポーツを楽しめることができる」では男女ともにできると思っており ($\chi^2 = 3.60$, $df = 1/4$, $p = .463$)，女子の95%が経験していた (Q 1-19) ($\chi^2 = 14.51$, $df = 1/4$, $p = .006$)。表 2にあるように男女ともに6割以上が一緒に楽しむことを希望していた (Q 1-20)

表 1 高校生における Q 1-17 「運動やスポーツをすることについて」

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
積極的にやる	59.6	61.5	60.7
暇があったら	30.7	32.6	31.8
別にやらなくてもよい	9.7	6.0	7.5

表 2 高校生における Q 1-20 「男女一緒に運動やスポーツを楽しみたいか」

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
はい	40.0	39.6	39.8
どちらはい	29.3	22.6	25.3
どちらともいえない	23.3	28.1	26.1
どちらいいえ	4.1	5.5	4.9
いいえ	3.3	4.2	3.8

表3 高校生におけるQ 1-21「体育授業の担う役割」(自由記述)

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
健康の維持増進	26.7	29.6	28.4
スポーツの楽しさや喜びを体験し、学ばせる	10.7	9.9	10.2
ストレスを発散させる	10.7	7.0	8.5
交友関係づくり	9.6	5.7	7.3
社会性を育てる	4.4	5.5	5.0
スポーツや身体に関する知識を得る	4.8	2.3	3.4
スポーツを通じて得るものを学習させる	2.6	1.0	1.7
生涯スポーツの礎、運動の習慣づけ	0.4	0.8	0.6
その他	3.0	1.0	1.8
無回答	27.0	37.1	33.0

($\chi^2 = 5.13$, $df = 1/4$, $p = .274$)。

- Q 1-21「体育授業の担う役割」について、男女ともに「健康の維持増進」が一番多く(男子36.5%, 女子47.1%), ついで「スポーツの楽しさや喜びを体験し、学ばせる」(男子14.7%, 女子15.7%), 「ストレス発散」(男子14.7%, 女子11.2%), 「交友関係づくり」(男子13.2%, 女子9.1%)であった(表3)($\chi^2 = 12.95$, $df = 1/8$, $p = .113$)。

2) 運動意欲尺度, 社会的スキル尺度, 孤独感尺度の得点比較

T検定を行った結果, 運動意欲尺度では「運動有能感」($t = 5.66$, $df = 648$, $p = .000$)「活動欲求」($t = 4.95$, $df = 644$, $p = .000$)「競争欲求」($t = 4.53$, $df = 649$, $p = .000$)で有意であり, 男子の得点が高かった。また, 社会的スキル尺度($t = 3.72$, $df = 632$, $p = .000$)と孤独感尺度($t = 2.83$, $df = 624$, $p = .005$)においても有意であり, 男子の得点が高かった。

男女比較の結果から, 男子は女子よりも「自分の健康」「社会の出来事」「スポーツ」「学習活動」に興味関心があり, 人生の生きがいを感じて, 自分の人生は年を経るとともにだんだん良くなっており, 元気であると感じている傾向が見られた。また, 男女ともに今の生活, 人間関係に満足しているものの, 何事もうまくいっているとは感じていない傾向にある。さらに, 女子は悩み事を

持っている傾向にあることが示された。運動やスポーツは男子の方が「楽しいから」という理由でよく行っており，運動やスポーツを行う時間的余裕があるという傾向がみられた。男女ともに約60%が運動やスポーツを積極的に行うべきだという意見を持っていた。男女一緒に運動やスポーツを行うことについては男女ともに肯定的な意見を持っている。また，体育授業の担う役割としては男女ともに「健康の維持増進」「スポーツの楽しさや喜びを体験し，学ばせる」「ストレス発散」「交友関係づくり」を上げていた。運動意欲，社会的スキルそして孤独感は男子の方が高かった。

(2) 学年別男女比較

ここでは分析数が多くなるため，統計的な分析結果は省略する。

1) 調査対象者の特質について

階自乗検定を行った結果，以下のような特徴が見られた。

- Q1-2：1，3年生において男子は女子よりも自分の健康に興味関心がある。しかし，2年生は男女ともに高く興味関心がある。
- Q1-3：各学年において男子は女子よりも社会の出来事に興味関心がある。
- Q1-4：1，3年生において男子は女子よりもスポーツに興味関心がある。しかし，2年生は男女ともスポーツに興味関心がある。
- Q1-5：1年生において男子は女子よりも学習活動（教養講座）に興味関心がある。しかしながら，2年生では男女ともに「どちらともいえない」と回答する割合が最も多く，3年生においては男女ともに学習活動（教養講座）に興味関心がある傾向にある。
- Q1-6：1年生では男子は女子よりも人生に生きがいを感じている。2年生では男女ともに「どちらともいえない」と回答する割合が最も多く，3年生においては男女ともに人生に生きがいを感じている傾向にある（表4）。
- Q1-7：1，2年生では，男女ともに「自分の人生が，年をとるにしたがってもだんだん良くなっていくと思っている」について「どちらともいえない」と回答する割合が最も多い傾向がある。3年生では男子の方がやや良くなっ

表4 高校生におけるQ1-6「人生に生きがいを感じている」
 (「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合)

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	65.5	50.4	57.1
2年生	55.3	66.1	61.6
3年生	57.3	49.3	52.3

表5 高校生におけるQ1-7「自分の人生はだんだん良くなっていると思う」(「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合)

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	34.2	28.4	31.0
2年生	34.2	22.9	27.6
3年生	34.6	32.1	33.0

表6 高校生におけるQ1-8「自分は元気だと思っている」(「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合)

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	61.3	68.9	65.4
2年生	64.5	63.3	63.8
3年生	70.7	55.7	61.3

ていくと思う傾向がある(表5)。

- Q1-8:1, 3年生において, 男子は女子より去年と同じように元気だと思っている。しかし, 2年生は, 男女とも元気だと思っている傾向にある(表6)。
- Q1-9:1, 2年生は男女ともに今の生活に満足している傾向にある。しかし, 3年生男子は「どちらともいえない」と「満足していない」に分かれるという特徴が見られた(表7)。

表7 高校生におけるQ 1－9「今の生活に満足している」（「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合）

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	58.5	57.8	58.1
2年生	50.0	65.7	59.2
3年生	53.7	45.7	48.6

表8 高校生におけるQ 1－10「人間関係に満足している」（「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合）

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	71.2	70.4	70.7
2年生	67.1	67.0	67.0
3年生	69.5	62.9	65.3

表9 高校生におけるQ 1－11「何事もうまくいっている」（「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合）

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	24.3	17.8	20.7
2年生	27.6	22.0	24.3
3年生	15.9	14.3	14.9

- Q 1－10：全学年において，男女ともに家族や親戚，友人との行き来に満足している傾向にある（表8）。
- Q 1－11：全学年において，男女ともに現在，何事もうまくいっていないと思っている傾向にある（表9）。
- Q 1－12：全学年において，男子よりも女子の方で悩み事がある傾向にある（表10）。
- 全学年において，男子の方が何かの運動あるいはスポーツを行っている頻度が高く（Q 1－13），男子の方がよくやっていると判断しているという特徴

表10 高校生におけるQ 1-12「悩みごとはない」（「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合）

	男子(%)	女子(%)	全体(%)
1年生	30.4	14.1	21.5
2年生	28.9	15.6	21.1
3年生	17.3	14.4	15.5

(Q 1-14)が見られた。また、Q 1-15の結果から男子の方が運動やスポーツをする余裕があると回答する割合が高く、2、3年生では男子の方が楽しいからという理由が圧倒的に強いと回答する割合が高かった(Q 1-16)。一方、1年生では男女ともに楽しいからという理由が圧倒的に強いと回答する割合が高かった。Q 1-17「運動やスポーツをすることについての意見」としては、2、3年生では男女ともに積極的にやるべきだとする生徒は60%以上いた。1年生では女子の方が積極的にやるべきだと回答する割合が多かった。

- Q 1-18：1、2年生では、男女ともに男女一緒に運動やスポーツを楽しむことができると思っており、3年生では男子の方ができると回答する割合が多かった。全学的に女子の95%が男女一緒に運動やスポーツを楽しむ経験をしており(Q 1-19)、男女ともに6割以上が一緒に楽しむことを希望していた(Q 1-20)。
- Q 1-21：「体育授業の担う役割」について、1、2年生と3年生女子は「健康の維持増進」が一番多いが、3年生男子は「交友関係づくり」が最も多かった。また、「ストレス発散」は1年生男子と3年生女子で2番目に多いが、それ以外のグループは4番目に多くあげていた。「スポーツの楽しさや喜びを体験し、学ばせる」ことは全学年で2番目または3番目に回答する割合が多かった。

2) 運動意欲尺度，社会的スキル尺度，孤独感尺度の得点比較

T検定を行った結果，1年生では「運動有能感」「活動欲求」「競争欲求」，社会的スキル尺度，孤独感尺度の得点に有意な差が認められ，それぞれ男子の方で高かった。

2年生は，「活動欲求」「競争欲求」，孤独感尺度の得点に有意であり，男子の方で高かった。

3年生では「運動有能感」「活動欲求」「競争欲求」が有意で，社会的スキル尺度の得点が男子の方で高かった。

これらの結果から，各学年において先に行った全学年対象の男女比較で得られた結果とほぼ同じ傾向が見られた。ただし，2年生は男女ともに①「自分の健康」「スポーツ」に興味関心を持っていること，②「学習活動」への興味関心は，学年があがるにつれて男女差がなくなり，ともに高くなっていくことが特徴として示された。3年生男子は今の生活に対し「満足していない」「どちらともいえない」に分かれる傾向が示された。

(3) 男女別学年比較

ここでも分析数が多くなるため，統計的な分析結果の記述は省略する。

1) 調査対象者の特質について

クロス分析を行った結果，以下の特徴が認められた。

① 男子における学年別比較

Q1-4：3年生において最もスポーツに興味関心がある。

Q1-13：3年生の運動・スポーツを行う頻度が少ない。

Q1-15：3年生の運動・スポーツを行う時間的余裕は少ない。

Q1-16：3年生の楽しいからという理由が圧倒的に強いと回答する割合が高い。

Q1-18：男女一緒に運動やスポーツを楽しめることができるのは3年生が最も多い。

Q1-19：男女一緒に運動やスポーツをした経験のあるのは3年生が最も多い。

Q 1-21：学校の体育授業の担う役割として、「健康維持増進」は学年があがるにつれて減少し、「楽しさや喜びを経験し、学ぶ」「交友関係づくり」「ストレス発散」の占める割合が増加する。

② 女子における学年別比較

Q 1-2：健康に対する興味は、学年があがるにつれて増加する。

Q 1-3：社会の出来事に対する興味関心は、学年があがるにつれて増加する。

Q 1-5：学習活動に対する興味関心は、学年があがるにつれて増加する。

Q 1-13：3年生の運動・スポーツを行う頻度が少ない。

Q 1-14：運動・スポーツを非常にやっていると評価するのは学年があがるにつれて減少する。

Q 1-15：3年生の運動・スポーツを行う時間的余裕は少ない。

Q 1-16：3年生の楽しいからという理由が圧倒的に強いと回答する割合が高い。

2) 運動意欲尺度，社会的スキル尺度，孤独感尺度の得点比較

1 要因分散分析を行った結果，男子において「運動有能感」「競争欲求」「活動欲求」が有意であり，「運動有能感」「競争欲求」は1年生に比べて3年生が高く，「活動欲求」は3年生が最も高い。女子においては学年間による違いは見られなかった。

これらの結果より，3年生は男女ともに運動やスポーツを行う頻度や時間的余裕は少ないものの，楽しいから行うという理由が最も多くなる。男子では3年生が「スポーツ」に興味関心を最も強く持ち，女子では「自分の健康」「社会の出来事」「学習活動」に対する興味関心が学年があがるにつれて高くなるという傾向が見られた。運動意欲は男子において1年生よりも3年生の方が高いものの，女子においては学年間の差は認められなかった。

(4) 社会的スキル尺度における得点ランクによる群間比較

Kiss-18 (菊池・堀尾, 1994) 作成について報告されている高校生の平均値と標準偏差から，高得点者，普通そして低得点者の3つのランクづけを男女そ

れぞれ行った。

1) 全体

全体として，低得点者は91名，高得点者は211名いた。このうち，1年生低得点者は36名，高得点者は74名。2年生低得点者19名，高得点者64名。3年生低得点者36名，高得点者73名であった。各学年によるそれぞれのランクに含まれる割合に差はなかった。被調査者の特質に関する質問をクロス分析にて検討した結果，以下の特徴が見られた（表11）。

Q 1 - 2 : 高得点者群の方が自分の健康に興味関心がある ($\chi^2 = 10.93$, $df = 1/4$, $p = .027$)。

Q 1 - 3 : 高得点者群の方が社会の出来事に興味関心がある ($\chi^2 = 10.36$, $df = 1/4$, $p = .035$)。

Q 1 - 4 : 高得点者群の方がスポーツに興味関心がある ($\chi^2 = 30.38$, $df = 1/4$, $p = .000$)。

Q 1 - 6 : 高得点者群の方が人生に生きがいを感じている ($\chi^2 = 35.94$, $df = 1/4$, $p = .000$)。

表11 高校生の社会的スキル尺度における得点ランクによる群間比較
 (「はい」「どちらかといえばはい」と答えた割合)

	高得点者 (211名)	低得点者 (91名)
Q 1 - 2 健康に興味関心がある	78.8	64.4
Q 1 - 3 社会に出来事に興味関心がある	71.9	59.6
Q 1 - 4 スポーツに興味関心がある	85.2	59.3
Q 1 - 6 人生に生きがいを感じる	73.8	41.8
Q 1 - 7 人生が良くなっていく	44.0	22.0
Q 1 - 8 元気である	69.5	48.4
Q 1 - 9 今の生活に満足	62.0	40.0
Q 1 - 10 人間関係に	78.6	53.8
Q 1 - 11 何事もうまくいっている	27.1	8.8
Q 1 - 12 悩みごとがない	26.8	9.9

- Q 1 - 7 : 高得点者群の方が自分の人生が、年々良くなっていると感じている ($x^2 = 13.47$, $df = 1/4$, $p = .009$)。
- Q 1 - 8 : 高得点者群の方が去年と同じように元気であると感じている ($x^2 = 12.33$, $df = 1/4$, $p = .015$)。
- Q 1 - 9 : 高得点者群の方が今の生活に満足している ($x^2 = 17.62$, $df = 1/4$, $p = .001$)。
- Q 1 - 10 : 高得点者群の方が家族や親戚、友人との行き来に満足している ($x^2 = 27.16$, $df = 1/4$, $p = .000$)。
- Q 1 - 11 : 低得点者群の方が現在、何事もうまくいっていないと感じている ($x^2 = 28.45$, $df = 1/4$, $p = .000$)。
- Q 1 - 12 : 低得点者群の方が悩み事がある ($x^2 = 21.04$, $df = 1/4$, $p = .000$)。
- Q 1 - 13~16 : 高得点者群の方が運動やスポーツを行う頻度が高く、よくやっていると判断している。また、運動やスポーツを行う時間的余裕も高得点者群の方があり、楽しいという理由で行っている割合が高い (Q 1 - 13 : $x^2 = 20.90$, $df = 1/4$, $p = .000$; Q 1 - 14 : $x^2 = 20.15$, $df = 1/3$, $p = .000$; Q 1 - 15 : $x^2 = 9.59$, $df = 1/4$, $p = .048$; Q 1 - 16 : $x^2 = 13.97$, $df = 1/3$, $p = .003$)。
- Q 1 - 18~20 : 高得点者群の方が男女一緒に運動やスポーツを楽しむことが出来るとしており、その経験や希望も高得点者群の方が多い (Q 1 - 18 : $x^2 = 4.60$, $df = 1/2$, $p = .100$; Q 1 - 19 : $x^2 = 38.87$, $df = 1/4$, $p = .000$; Q 1 - 20 : $x^2 = 18.03$, $df = 1/4$, $p = .001$)。
- また、T検定にて運動意欲尺度、孤独感尺度の得点を比較したところ、「運動有能感」($t = -8.83$, $df = 297$, $p = .000$)「親和欲求」($t = -7.02$, $df = 295$, $p = .000$)「活動欲求」($t = -5.73$, $df = 295$, $p = .000$)「競争欲求」($t = -3.786$, $df = 298$, $p = .000$)「運動価値感」($t = -3.84$, $df = 296$, $p = .000$)は高得点者群の方が高く、「運動不安」($t = 6.10$, $df = 294$, $p = .000$)は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった ($t = 11.16$, $df = 290$, $p = .000$) (表12)。

表12 高校生の社会的スキル尺度における得点ランクによる運動意欲，孤独感の平均値と標準偏差

	高得点者 (211名)		低得点者 (91名)	有意差
運動有能感	11.09(3.18)	>	7.68(2.82)	p < .001
親和欲求	13.73(2.42)	>	11.43(2.94)	p < .001
活動欲求	11.41(3.27)	>	9.02(3.36)	p < .001
競争欲求	13.19(2.80)	>	11.78(3.29)	p < .001
運動不安	8.21(2.54)	<	10.13(2.39)	p < .001
運動価値感	13.94(2.12)	>	12.84(2.57)	p < .001
孤立感	33.28(8.77)	<	46.43(10.26)	p < .001

これらの結果から，高得点者群はすべての質問項目に対して低得点者群よりも積極的・肯定的な意見あるいは態度にあるという特徴が見られた。また，運動意欲尺度，孤独感尺度の得点を比較したところ，「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」「競争欲求」「運動価値感」は高得点者群の方が高く，「運動不安」は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

2) 男女それぞれの比較

低得点者に含まれる男子は39名，女子は52名，高得点者では男子114名，女子97名であり，男女別によるそれぞれのランクに含まれる割合にも差はなかった。ここでの統計的分析結果の記述は省略する。

① 男子

被調査者の特質に関する質問を検討した結果，先に挙げた全体を対象とした分析結果と同様の特徴が見られた。そのほか，「Q 1 - 5：高得点者群の方が学習活動に興味関心がある」ことが示された。

② 女子

被調査者の特質に関する質問を検討した結果，男子とは異なる特徴が示された。つまり「Q 1 - 2：自分の健康」や「Q 1 - 3：社会の出来事」に対する興味関心。「Q 1 - 7：自分の人生が，年々良くなっていると感じている」か

否か。「Q 1-13~15：運動やスポーツを行う頻度」と「Q 1-14：よくやっているか」の判断。また、「Q 1-15：運動やスポーツを行う時間的余裕」と、「Q 1-16：運動やスポーツを行う理由」。では高得点者群と低得点者群の回答の割合に差は認められず、女子の特徴として考えられる。

また、運動意欲尺度、孤独感尺度の得点については全体を対象としてT検定を行った結果と同様の関係が見られた。

3) 学年別男女別比較

被調査者の特質に関する質問についてはクロス分析を、運動意欲尺度および孤独感尺度の得点についてはT検定を用いて、各学年における男女それぞれの比較を行った。ここでの統計的分析結果の記述は省略する。

① 1年生男子

「Q 1-4：スポーツへの興味関心」「Q 1-6：人生の生きがい」「Q 1-8：去年と同じように元気か」「Q 1-9：今の生活に満足しているか」「Q 1-10：家族や親戚、友人との行き来に満足しているか」「Q 1-11：現在、何事もうまくいっているか」「Q 1-12：悩み事があるか」において高得点群の方が積極的、肯定的な回答を示した。また、Q 1-14, 17：高得点者群の方が運動やスポーツをよくやっていると判断している。また、運動やスポーツを積極的にやるべきだとする意見の割合が高い。Q 1-18, 20：高得点者群の方が男女一緒に運動やスポーツを楽しむことが出来るとしており、その希望も高得点者群の方が多いという傾向も示された。

運動意欲尺度、孤独感尺度の得点を検討したところ、「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」「競争欲求」「運動価値感」は高得点者群の方が高く、「運動不安」は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

② 1年生女子

「Q 1-11：現在、何事もうまくいっているか」「Q 1-12：悩み事があるか」で高得点群の方が積極的、肯定的な回答を示した。また、Q 1-18：高得点者群の方が男女一緒に運動やスポーツを楽しむことが出来るとしている。

運動意欲尺度、孤独感尺度の得点を検討したところ、「運動有能感」「親和欲

求」「運動価値感」は高得点者群の方が高く、「運動不安」は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

③ 2年生男子

Q 1-18, 20：高得点者群の方が男女一緒に運動やスポーツを楽しむことが出来るとしており，その希望も高得点者群の方が多い。

運動意欲尺度，孤独感尺度の得点を比較したところ，「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」は高得点者群の方が高かった。孤独感尺度では両群の差はなかった。

④ 2年生女子

「Q 1-2：自分の健康に興味関心があるか」「Q 1-6：人生に生きがいを感じているか」「Q 1-8：去年と同じように元気であるか」で高得点群の方が積極的，肯定的な回答を示した。

運動意欲尺度，孤独感尺度の得点を比較したところ，「運動有能感」「親和欲求」は高得点者群の方が高く，「運動不安」は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

⑤ 3年生男子

「Q 1-5：学習活動に興味関心があるか」「Q 1-6：人生に生きがいを感じているか」で高得点群の方が積極的，肯定的な回答を示した。Q 1-17：高得点者群の方が運動やスポーツを積極的にやるべきだとする意見の割合が高い。Q 1-19：高得点者群の方が男女一緒に運動やスポーツを行った経験が多い。

運動意欲尺度，孤独感尺度の得点を比較したところ，「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」「競争欲求」は高得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

⑥ 3年生女子

「Q 1-9：今の生活に満足しているか」「Q 1-11：現在，何事もうまくいっているか」で高得点群の方が積極的，肯定的な回答を示した。Q 1-14：高得点者群の方が運動やスポーツをよくやっていると判断している。

運動意欲尺度、孤独感尺度の得点を比較したところ、「運動有能感」「親和欲求」「活動欲求」は高得点者群の方が高く、「運動不安」は低得点者群の方が高かった。孤独感尺度では低得点者群の方が高かった。

社会的スキル尺度の高得点者と低得点者の両群の比較から、全体的な傾向として高得点者群の方がそれぞれの質問に対して積極的または肯定的な態度を示す傾向が見受けられた。特にその傾向は1年生男子で強かったが、2年生男子はその傾向は最も弱かった。

本調査では高校生の運動意欲、社会的スキルそして孤独感の実体を把握するとともにそれらの関連性について検討した。

その結果、男子は女子に比べて自分を取り巻く事柄に対して積極的な態度を持っている傾向が示された。但し、男女ともに生活や人間関係には満足しているが、何事もうまくいっていないと感じる生徒が多く、特に女子は悩み事のある傾向が強かった。運動やスポーツをすることについては男女ともに肯定的な意見を持っているが、積極的に取り組んでいるのは男子であった。そのため、運動意欲は男子の方が高く、学年があがるにつれてその傾向が強くなっていった。また、何事にも積極的な姿勢を持つ男子は他者との人間関係をうまくこなす事が出来るか否かを問う社会的スキルも高かった。孤独感では男子の方が高く、性差による特徴を反映するものであった。

次に社会的スキルの高い生徒と低い生徒の2群を抽出し、両群の特徴について検討した。その結果、社会的スキルの高い生徒は自分を取り巻く事柄に対して積極的な姿勢を示し、その傾向は男子で特に顕著であった。運動意欲は社会的スキルの高い生徒の方が高く、孤独感では当然の事ながら社会的スキルの低い生徒の方が高かった。

本研究では一つの公立高校普通科に在学する生徒を調査対象としたため、本研究で得られた結果は高校生全般の傾向として捉えるには無理が生じている可能性が非常に高いことが予想される。これは本研究の問題点としてあげられる。また、高校生の運動意欲や孤独感、社会的スキル形成には両親の影響も大きい

ものと考えられるため，これらの要因に関する両親の姿勢とその子供である高校生の姿勢との関連性について検討する余地が残される。さらにはこれらの要因における他世代の実態に関するデータも不足しており，各世代の生活との関連で検討していく必要もあろう。

IV. 引用参考文献

- 相川，佐藤，佐藤，高山（1993）社会的スキルという概念について — 社会的スキルの生起過程モデルの提唱 —. 宮崎大学教育学部紀要社会科学，Vol. 74，pp. 1-16.
- 相川，津村編（1998）対人行動学研究シリーズ① 社会的スキルと対人関係. 誠信書房.
- 堀，山本，松井編（1996）人間と社会を測る心理尺度ファイル. 垣内出版.
- 猪俣，猪俣，小林，伊藤，高橋（1988）老年期における運動意欲の測定に関する研究. 昭和63年度文部省科学研究費（一般研究C）研究成果報告書.
- 石倉忠夫（1999）D大学体育実技を受講している新入生の社会的スキルの変化. 同志社保健体育，第38号，pp. 23-44.
- 石倉忠夫（2000）体育実技受講生における大学1年生の社会的スキルと孤独感の関係. 同志社保健体育，第39号，pp. 61-77.
- 石倉忠夫（2001）大学1年生体育実技ゴルフ受講者の社会的スキルと孤独感. 同志社保健体育，第40号，pp. 129-137.
- 伊藤，石倉，杉江（1999）高校生の体育授業への態度 — 生涯学習につなぐ指導の基礎的検討 —. 教育医学，44(4)，pp. 618-628.
- 岩田純一，他編（1995）発達心理学辞典. ミネルヴァ書房，pp. 299.
- 工藤，西川（1983）孤独感に関する研究(1) — 孤独感尺度の信頼性・妥当性 —. 実験社会心理学研究，Vol. 22，pp. 99-108.
- 市村，中川（2002）体育と社会的スキル教育. 市村・阪田・賀川・松田編 体育授業の心理学. 大修館書店，pp. 104-109.
- 菊池彰夫（1998）また／思いやりを科学する 向社会的行動の心理とスキル. 川島書店.
- 菊池，堀尾（1994）社会的スキルの心理学 100のリストとその理論. 川島書店，pp. 184-191.
- 内藤哲雄（2000）チームへの適応・不適応. 上田雅夫監修 スポーツ心理学ハンドブック. 実務教育出版，pp. 188-190.
- 総理府（1994）体力・スポーツに関する世論調査.

Riggio, R. E. (1986) Assessment of basic social skills. *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol. 51, pp. 649-660.

高田・藤田編 (1996) 発達と教育の心理学. 福村出版, pp. 63-68.

山本清洋 (1999) 子どもの体育・スポーツの世界——社会的スキル学習の可能性と限界——. *体育の科学*, Vol. 49, No. 1, pp. 33-37.

資料 1

(生徒用)

この調査はスクールスポーツ支援事業「生涯学習につなぐ指導の基礎的検討」の一環として実施しています。誠に勝手ながら保護者の皆様はじめ，おじいさまおばあさまを含むご家族の皆様にもご協力をお願いいたします。

- ・この調査結果による個人のデータは一切公表いたしません。また，あなたの成績にも一切影響しません。
- ・これからの質問にお答えください。答えは別紙の回答用紙に，あてはまる欄を塗りつぶして(●)ください。

Y 高等学校 保健体育科

I. 次の質問にお答えください。

- 1 あなたは運動部に所属していますか
 - ① 所属している
 - ② 所属しているが対外試合の経験はない
 - ③ 所属しており対外試合の経験がある
- 2 あなたは自分の健康に興味，関心がありますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 3 あなたは社会の出来事に興味，関心がありますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 4 あなたはスポーツに興味，関心がありますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 5 あなたは学習活動（教養講座など）に興味，関心がありますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 6 あなたは人生に生きがいを感じていますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 7 あなたは自分の人生が，年をとるにしたがって，だんだんよくなっていくと思いますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 8 あなたは去年と同じように元気だと思っていますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 9 あなたは今の生活に満足していますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ
- 10 あなたは家族や親戚，友人との行き来に満足していますか
 - ① はい
 - ② どちらかという，はい
 - ③ どちらともいえない
 - ④ どちらかという，いいえ
 - ⑤ いいえ

資料 2

- 11 あなたは現在、何事もうまくいっていると思いますか
① はい ② どちらかという、はい ③ どちらともいえない
④ どちらかという、いいえ ⑤ いいえ
- 12 あなたは悩みごとがないですか
① はい ② どちらかという、はい ③ どちらともいえない
④ どちらかという、いいえ ⑤ いいえ
- 13 あなたは現在、何かの運動あるいはスポーツを行っていますか
① はい。ほとんど毎日 ② はい。週に3～4回 ③ はい。週に1～2回
④ はい。月に1～2回 ⑤ いいえ
- 14 あなたは現在、運動やスポーツをよくやっていますか。自分の判断で結構です
① 非常によくやっている ② よくやっている方である
③ それほどやっているとは思わない ④ ほとんどやっていない
- 15 あなたは現在、運動やスポーツをしようと思えば、できる時間的余裕がありますか
① 十分ある ② ある程度ある ③ あまりない ④ 全くない
- 16 あなたは現在、運動やスポーツをするとき、楽しいからという理由が強いですか
① 楽しいからという理由が圧倒的に強い
② 楽しいからという理由もあるが、その他の理由もある
③ 楽しいからというより、ほかの理由の方が強い
④ なんとなくやっている
- 17 運動やスポーツをすることについて、あなたは次のどの意見に最も近いですか
① 運動やスポーツは積極的にやるべきだ
② 運動やスポーツは暇があったらする程度でよい
③ 暇があっても別にやらなくてもよい
- 18 男女一緒に運動やスポーツを楽しむことができますか
① はい ② どちらかという、はい ③ どちらともいえない
④ どちらかという、いいえ ⑤ いいえ
- 19 男女一緒に運動やスポーツをした経験がありますか
① はい ② どちらかという、はい ③ どちらともいえない
④ どちらかという、いいえ ⑤ いいえ
- 20 男女一緒に運動やスポーツを楽しみたいですか
① はい ② どちらかという、はい ③ どちらともいえない
④ どちらかという、いいえ ⑤ いいえ
- 21 学校の体育授業の担う役割は何だと思いますか？ 回答用紙に自由に答えてください

資料 3

II. それぞれの質問に対し，適切だと思われるところを塗りつぶして（●）ください。

- よくあてはまる ----- ①
- ややあてはまる ----- ②
- あまりあてはまらない ----- ③
- まったくあてはまらない ---- ④

項目
番号

- 1 私は運動はじょうずだと思う。
- 2 私は，他の人と競争をするとき，いつも勝ちたいと思う。
- 3 私は，運動している途中でうまくいかなかったとき，もうだめだと思ってしまうことが多い。
- 4 私は，素早く動くことができる方である。
- 5 私は，運動する時間が待ちどおしい。
- 6 私は，運動では他の人よりじょうずになりたい。
- 7 私は，運動が自分にとって，大事なことだと思えば思うほど，うまくいなくなってしまふ。
- 8 運動では，友達といっそう仲よくできる機会が持てる。
- 9 私は，たくみにじょうずに運動できる。
- 10 私は，いつも運動したいと思っている。
- 11 私は，運動でみんなと力をあわせることが好きだ。
- 12 私は，運動でゲームをするとき，楽しむだけでなく，勝ちたいと思う。
- 13 運動はたくさん仲間をつくる。
- 14 私は，運動には自信がある。
- 15 私は，毎日一回は運動したくなる。
- 16 運動は，健康な身体をつくるのに大切である。
- 17 私は，運動で仲間みんなよりうまくなりたい。
- 18 私は，やっている運動がうまくできないと，すぐあきらめる。
- 19 運動クラブ等では，良い友達がたくさんできる。
- 20 運動は大切な勉強である。
- 21 私は，運動するとき，誰かに嫌なことを言われるのではないかとびくびくする。
- 22 運動はいろいろ自分のために役立つ。
- 23 運動は老化防止に役立つと思う。
- 24 私は，運動のことを考えるとうきうきした気持ちになる。

資料 4

Ⅲ. 次にあげる質問に対してあてはまるものを塗りつぶして (●) ください。

- いつもそうだ ----- ①
 だいたいそうだ ----- ②
 どちらともいえない ----- ③
 たいていそうでない ----- ④
 いつもそうでない ----- ⑤

項
目
番
号

- 1 勉強をするときに、何をどうやったらよいか決められますか。
- 2 知らない人でも、すぐに会話が始められますか。
- 3 まわりの人たちが自分とは違った考えを持っていても、うまくやっていますか。
- 4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。
- 5 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。

- 6 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。
- 7 相手から非難されたときにも、それをうまく片付けることができますか。
- 8 こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか。
- 9 まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。
- 10 勉強の上で、どこに問題があるのかすぐに見つけることができますか。

- 11 あちらこちらから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか。
- 12 他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか。
- 13 勉強の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか。
- 14 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。
- 15 他人が話しているところに、気軽に参加できますか。

- 16 他人を助けることを、上手にやれますか。
- 17 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。
- 18 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。

資料5

V. 次にあげる質問に対してあてはまるものを塗りつぶして (●) ください。

- しばしば感じる ----- ①
 時々感じる ----- ②
 めったに感じない ----- ③
 決して感じない ----- ④

項
目
番
号

- 1 私は自分の周囲の人たちと調子よくいっている
- 2 私は人とのつきあいがいい
- 3 私には頼りにできる人がだれもない
- 4 私はひとりぼっちではない
- 5 私は親しい友だちの気心がわかる

- 6 私は自分の周囲の人たちと共通点が多い
- 7 私は今、誰とでも親しくしていない
- 8 私の興味や考えは、私の周囲の人たちとはちがう
- 9 私は外出好きの人間である
- 10 私には親密感のもてる人たちがいる

- 11 私は疎外されている
- 12 私の社会的なつながりはうわべだけのものである
- 13 私をよく知っている人はだれもない
- 14 私はほかの人たちから孤立している
- 15 私はその気になれば、人とつきあうことができる

- 16 私を本当に理解している人たちがいる
- 17 私はたいへん引っ込み思案なのでみじめである
- 18 私には知人がいるが、気心の知れた人はいない
- 19 私には話し合える人たちがいる
- 20 私には頼れる人たちがいる

ご協力ありがとうございました。

資料6

回答用紙（生徒用）

この調査結果による個人のデータは一切公表いたしません。
また、あなたの成績にも一切影響しません。

回答は、○を塗りつぶしてください。鉛筆でもボールペンでもどちらでも結構です。

回答が間違った場合は、●の上に×をつけ、正しいところを回答してください。

あなたのクラス・出席番号

年 組 席

あなたの年齢 歳

あなたの性別 男 女
 ○ ○

裏面へ

資料 7

I	1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	III	1	①	②	③	④	⑤
	2	○	○	○							2	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○					3	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○				4	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○				5	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○				6	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○				7	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○				8	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○				9	○	○	○	○	○
	10	○	○	○	○	○	○				10	○	○	○	○	○
	11	○	○	○	○	○	○				11	○	○	○	○	○
	12	○	○	○	○	○	○				12	○	○	○	○	○
	13	○	○	○	○	○	○	○			13	○	○	○	○	○
	14	○	○	○	○	○					14	○	○	○	○	○
	15	○	○	○	○	○					15	○	○	○	○	○
	16	○	○	○	○						16	○	○	○	○	○
	17	○	○	○							17	○	○	○	○	○
	18	○	○	○	○	○					18	○	○	○	○	○
	19	○	○	○	○	○										
	20	○	○	○	○	○										
	21	○	○	○	○	○										

(I - 21記入欄)

II	1	①	②	③	④	IV	1	①	②	③	④
	2	○	○	○	○		2	○	○	○	○
	3	○	○	○	○		3	○	○	○	○
	4	○	○	○	○		4	○	○	○	○
	5	○	○	○	○		5	○	○	○	○
	6	○	○	○	○		6	○	○	○	○
	7	○	○	○	○		7	○	○	○	○
	8	○	○	○	○		8	○	○	○	○
	9	○	○	○	○		9	○	○	○	○
	10	○	○	○	○		10	○	○	○	○
	11	○	○	○	○		11	○	○	○	○
	12	○	○	○	○		12	○	○	○	○
	13	○	○	○	○		13	○	○	○	○
	14	○	○	○	○		14	○	○	○	○
	15	○	○	○	○		15	○	○	○	○
	16	○	○	○	○		16	○	○	○	○
	17	○	○	○	○		17	○	○	○	○
	18	○	○	○	○		18	○	○	○	○
	19	○	○	○	○		19	○	○	○	○
	20	○	○	○	○		20	○	○	○	○
	21	○	○	○	○						
	22	○	○	○	○						
	23	○	○	○	○						
	24	○	○	○	○						

